

甲子園学院

中期計画

I 中期計画の概要

1 計画期間 令和7年度～令和11年度（2025年度～2029年度）

2 学院を取り巻く社会環境

現代は将来の予測が困難な時代であり、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の時代と言われている。少子化による人口減少や高齢化、子どもの貧困、格差の固定化と再生産による負の連鎖、社会のつながりの希薄化などは、社会の課題として存在する。こうした中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、国際情勢の不安定化は、正に予測困難な時代を象徴する事態であったと言える。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響としては、学校の臨時休業により、子どもの居場所やセーフティネットとしての学校の福祉的役割を再認識するきっかけとなった。感染拡大当初はICTの活用が十分ではなく、デジタル化への対応の遅れが浮き彫りとなったが、これを契機として遠隔・オンラインでの学びの必要性が明らかになった。2040年以降の社会を見据えたとき、現時点で予測される社会の課題や変化に対応した人材を育成するという視点と、予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していく人材を育成するという視点の双方が必要となる。

予測できる社会の変化としてはまず、人口の減少が挙げられ、現在の生産年齢人口である15～64歳の人口は、2050年には現在の2/3に減少すると推計されている。労働生産性の低下は、社会経済の活力が危ぶまれる状況になる。加えて、長寿化が進展する中での対応も求められる。また、AIやロボットの発達により、特定の職種では雇用が減少し、問題発見力や的確な予測力、革新性といった能力が今後は一層求められることが予測されており、労働市場の在り方や働く人に必要とされるスキルが変容していくことが見通される。特に生成AIは人々の暮らしや社会に大きな変革をもたらす可能性があることが指摘されている。

3 学院の中期計画の方針

学校法人は、公教育を担う法人として安定した経営が求められ、本学においても平成22年度から平成25年度までの第1期経営改善計画、平成26年度から平成30年度までの第2期経営改善計画を策定した後、令和2年度から令和6年度までの中期事業計画を策定し、今回令和7年度以降の中期事業計画を策定する。

当学院の建学の精神 ① 勤勉努力（主体性をもって課題を見つけ、実行する）
② 和衷協同（心を同じくして共に力をあわせる）
③ 至誠一貫（真心をもってやり遂げる）を基本理念としつつ、子どもたちや保護者が望むような現在の教育環

境・社会情勢に適応した教育組織を作りあげることが重要である。

各学校園からは要望計画が出されているが、施設の全体計画や人事に関する
ことなど学院全体に関わることは、まとめて法人本部の中で記述する。

また、中期事業計画は、学校教育法第百九条第二項に規定する認証評価の結果
を踏まえて作成する。

Ⅱ 部門別・学校別計画

1 法人本部

令和7年4月施行の改正私立学校法に沿って寄付行為を変更し、法人運営の透明性の確保及び役員の実任を明確化し、評議員及び監事の権限を強化するとともに法人全体の質の向上を図る。

組織は「人」であり、「人」を大事にすることで、組織の強化を図っていく。職員はもとより職員の家族まで大事にすることで、長期的に学院に勤務してもらう。また、職員の能力を適正に判断するために、人材育成を強化し、評価制度の導入を図り、職員能力に応じた処遇を図る。

さらに、働き方改革として福利厚生制度を充実させ、働きやすい、働き続けられる職場環境を目指す。

事務改善は、学院全体として、経費削減やシステム導入などにより、事務の簡略化を図る。

広報については、入試広報は各学校園に委ねるが、学院全体のブランディングについては、全体構想の中で方向付けていく。

施設については、現状の学生・生徒数等の状況の中で、すべての建物の改築・建替えは不可能であるため、施設の統合・廃止を検討し、必要最小限の管理面積にする。

(1) 学内体制の整備

令和7年4月より、改正私立学校法が施行されるに伴い、理事会・評議員会の運用体制が大きく変わる。寄付行為や関係規程の法に則した適正な整備を行う。特に、ガバナンスの強化が改正のポイントであり、本学院の規模や組織体制に見合った内部統制システムになるよう諸規程の整備に努める。

(2) 障害者雇用の推進

本学の障害者雇用の法定雇用数は3名であるが、現状未達成となっている。障害者雇用率は上昇傾向にあるため、達成が困難になってきている。教育機関であるため、社会的な責任が大きいのが、現実には勤務できる職場が限定される。今後、精神・知的障害者の雇用要求も高くなると見込まれる中、職種開発も行う必要がある。

(3) 処遇改善

職員の給与面に関して、令和6年に給与の不均衡是正を行ったが、激変緩和措置をとったために、現状でも一部不均衡が生じたままになっている。教職員の給与格付けは、各々の年齢、経験年数を総合的に判断し、決定されるものであり、一定の差が生じることはありうる。教職員はその能力に応じた給与を支給されるべきであり、説明が可能な範囲まで是正する必要がある。

その他、管理職手当、出張手当などは、数年来見直しをせずに経過しているため、現在の急激な物価上昇に対応できない状況になっている。給与是正とは別に各種手当も実情に合わせた支給基準に改定を図る。

(4) 福利厚生 of 充実

働きやすい職場にすること、働き続けたいと思う職場にすることによって、職員がキャリアアップを重ね、優秀な職員に育ち、組織力が強化され、学院の質の向上につながる。

子育て、介護による職員の負担軽減のための休暇制度、働き方改革のための在宅勤務制度、フレックスタイム、職種別の研修制度、職場環境の整備等福利厚生を充実させていく。

(5) 事務改善

人事・給与制度の見直し、教職員向けの研修制度の充実、RPAの導入やワークフローの電子化など、ICTによる業務の効率化により、管理業務の削減を図る。

(6) 設備投資

学生・生徒等の獲得には、学習したくなるような施設環境が重要である。トイレの美装化、教室の空調関係、外壁塗装、学生ラウンジや図書室の整備など建築から30～40年経過している建物の補修、さらに老朽化していけば、建物の統廃合を含めた整備計画の作成が必須である。特に宝塚にある大学は、建物だけでも8棟あり、1棟を建替えるとなると、規模にもよるが、十数億円はかかることになるので、現在の学生数ではすべての建替えは困難である。

西宮にある短大、中高、小学校、幼稚園については、短期大学の敷地活用によって、大きく投資金額が異なる。

2 甲子園学院幼稚園

甲子園学院幼稚園は、建学の精神を保育の指針として、幼児が初めて経験する集団生活の中で、自主性や創造性、豊かな情操を育む教育を目指している。

(1) 幼稚園教育の理念

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである。幼児と共によりよい教育環境を創造し、安定した情緒のもとで自己を十分に発揮することにより、発達に必要な色々な体験を得ていくものであることを考慮して、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにする。

1. 幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であるので、遊びを通しての指導を中心として、集団の中での協調性や柔軟性、さらに創造性の豊かさを育てていく。
2. 幼児の発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであることから、幼児一人ひとりの特性に応じ、発達の課題に即した指導を行う。

(2) 教育課程の編成

幼稚園は、家庭との連携を図りながら、前述の幼稚園生活を通して、生きる力の基礎を育成するよう幼稚園教育を行い、このことにより、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとする。

これらを踏まえ、幼稚園においては、創意工夫を生かし、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即応した適切な教育課程を編成する。

1. 幼稚園生活の全体を通して、教育課程に係る教育期間や幼児の生活経験、発達の過程などを考慮して計画的に目標を設定し、組織の充実を図らなければならない。特に自我が芽生え、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる幼児期の発達の特性を踏まえ、入園から修了に至るまでの長期的な視野をもって充実した生活が展開できるように配慮する。
2. 幼稚園の毎学年の教育課程に係る教育週数は、特別の事情のある場合を除き、39週を下まわらない。

3. 幼稚園の1日の教育課程に係る教育時間は、4時間を標準とする。ただし、幼児の心身の発達の程度や季節などに応じて適切に配慮する。

(3) 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動

幼稚園は、地域の実態や保護者の要請により教育課程に係る教育時間の終了後等に希望者を対象に行う教育活動について、幼児の生活全体が豊かなものとなるよう充実に努めていく。

【施 策】

1. 子どもがのびのびと遊ぶことができる豊かな保育内容のアピール

子ども中心の教育内容をさらに充実させ、ホームページやオープンスクールの活用により甲子園学院幼稚園の保育の魅力や教育内容を広く発信していく。

甲子園学院小学校や地域の小学校との連携を強化することで、地域に開かれた幼稚園としてアピールしていく。

2. 低年齢児へのアプローチ

甲子園学院幼稚園は、令和5年9月から満3才児保育を実施している。今後も低年齢児保育及び親子の居場所を確保するなど、入園前の低年齢児のアプローチを行う。

また、こども家庭庁が実施している「こども誰でも通園制度」が本学院幼稚園にマッチするのかが検討する。

3. 環境の充実

近年の暑さは、園児にとって非常に危険な温度まで上昇している。しかしながら、園児は広い園庭での遊びを欲しており、熱中症対策を施したうえで園庭解放を行っていきたい。

4. 放課後保育の充実

令和4年度から、放課後事業として体操教室を実施している。教室の参加者は増加傾向にあり、教室終了後も預かり保育に移行する園児も多く、社会的なニーズに対応していると考えている。今後も子どもの発達に即し、興味をもった活動に幅広く対応するため、新たな教室の開設を検討する（英語・ダンス・絵画・音楽等）。放課後教室は、可能であれば、甲子園学院小学校、甲子園学院中学校・高等学校と継続できる習い事が望ましい。

3 甲子園学院小学校

甲子園学院小学校は、建学の精神のもと、「未来に輝く子ども」の育成を教育目標として、独自の教育により児童の個性と学力を伸ばし、人間として調和のとれた児童の育成を目指している。

(1) 小学校の理念

各学年別に、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開して、基礎的・基本的な知識と技能の習得と、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組める児童に育つよう、児童の心身の発達の段階や特性を十分考慮した適切な教育に努めている。

また、多様化する社会情勢において、しっかりとした道徳性を身に付けた児童に成長するよう、児童の発達の段階を考慮した適切な教育を目指している。

(2) 教育課程の編成

中学校受験を視野に入れたカリキュラムを組み、高い学力を培う教育を実践するために教科担任制や複数教員によるきめ細かな教育と、習熟度別にグループ分けした授業の実施、希望する児童が放課後の時間に宿題や個別課題に取り組める勉強会等を行っている。また、学習塾に頼らず小学校の授業だけで中学校受験に対応できるよう、毎月の模擬試験実施や英語学習にも取り組んでいる。

【施 策】

1. フューチャールームの設置

大画面スクリーンや電子黒板等の最先端 I C T 環境と、学びの空間を自由に変えられる伸び伸びとした学習空間（フューチャールーム）を設置して、児童の自己実現力の向上とクリエイティブな発想を育む環境づくりを目指す。

また、フューチャールームの他にも「未来の学校」を目指した新しい学校づくりに取り組んでいく。

2. 学習教材の導入

A I 技術の発展により、個々の児童に合わせた学習教材アプリが開発されている。企業と連携して、それぞれの児童のレベルや理解度にあわせた効果的な学習教材アプリを導入することで、児童一人ひとりの学力向上を図る。学習教材アプリは、授業の中で使用する以外にも、児童がいつでもどこでも自分のペースで勉強できる利点がある。また、ゲーム的な要素を取り入れることで、楽しく学べ、

勉強意欲を高める効果も期待できる。普段の授業とデジタル教材の両面から、児童の学習をサポートする。

3. 図書室の充実

児童にたくさんの本に触れてもらえるよう、教育委員会や自治体の提示している推薦図書や、中学校受験に出題されている図書の充実を図る。

また、図書室に「目安箱」を設置して、児童からリクエストのあった図書も取り入れていく。

書籍の充実だけでなく、図書室の充実化を図り、児童が気軽にリラックスしながら利用できる環境を作る。また、電子書籍の導入により、どこでもタブレットで読書できる環境作りにも取り組む。

4. 制服・校内着の見直し

ジェンダーレス化への対応として、校内着は令和 8 年度から男女同一色への変更を進めている（体操服は既に男女統一済み）。

また、制服に関しても、令和 6 年冬季から男児の長ズボンの導入を開始したが、女児の長ズボンの導入においても防寒対策も含めて検討を進める。

4 甲子園学院中学校・高等学校

甲子園学院中学校・高等学校は、建学の精神に則り知性を高め、情操豊かな調和のとれた人間の育成を目指す。

(1) 甲子園学院中学校・高等学校の教育理念

「次代を担うのは女性である」との考えのもと、教師と生徒一人ひとりが密に関わり、個性(学力)を伸ばす女子教育を行う。

習熟度別授業や選択授業を取り入れ、できうる限りの少人数授業を展開し、個人個人に合わせた教育方法で個性を伸ばす。

また、クラブ活動にも力を入れ、勉学以外の学生生活の充実も図る。

(2) 教育課程の編成

現在はプレミアムステージ、スタンダードステージの2コース制をとっている。

社会環境の変化も激しく、生徒の学びに対するニーズも多様化していることから、現状のコース編成を見直し、甲子園学院ならではの学びを提供できるような新コースの設置を検討する。

【施 策】

1. 甲子園学院ブランドの確立

甲子園学院中学校・高等学校の強みを明確にし、ターゲットとなる生徒・保護者への広報活動を行う。

また、甲子園大学との連携も踏まえ、甲子園学院としてのブランドを確立する。

2. 教育環境の魅力度の向上

充実した施設により、生徒が快適で集中しやすい環境を提供し、学習効率の向上を図る。最新の設備や技術を導入することで、生徒はより多様な学習体験を得ることができる。

また、良い施設は教職員にとっても働きやすい環境となり、教職員のモチベーションが向上し、結果として教育の質の向上も期待できる。

3. 教育内容の見直し

大学を併設している強みを生かし、高等学校から大学へとつながる教育内容やコースの新設を検討する。卒業後の進路選択の幅がさらに広がるようにしていく。

学校生活の充実が図れるよう部活動にも力を入れる。柔軟なカリキュラムで部活動に注力できるようにする。

5 甲子園短期大学

甲子園短期大学は、昭和 39 年 4 月に家政科を以て開学し、幼児教育科の開設をはじめ爾来 60 年の歩みを続け、令和 2 年の「学校法人甲子園学院中期事業計画」に基づき翌年に「甲子園短期大学中期教育改善計画」を策定・公表し、定員変更と教育課程の改善を行った。

その後も毎年カリキュラム改編に努め、「数理・データサイエンス・A I 教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を令和 5 年 8 月に受けた。また、同年度には一般財団法人大学・短期大学基準協会による短期大学認証評価を受審し、継続しての教育課程の改編の取組みと I C T 教育の施設・環境面を含めた教育活動の充実と展開、そして従来からの特別演習を中心とした総合教養などの授業の推進とレーダーチャート活用に基づく学習成果確認システムなどの教育の内部質保証による取組みが評価され、「適格」の認証を受けた。

輩出した卒業生たちは社会の礎となって、地域の企業・幼稚園・保育園・介護施設をはじめ多方面で活躍している。

しかしながら、近年の 18 歳人口の減少、4 年制大学志向など社会的趨勢は短期大学には非常に厳しく、本学でも大幅な定員割れが続いている。全学を挙げてこれを克服すべく上記のような改善と改革に取り組んできたが、理事会は令和 8 年度以降の学生募集停止を決定した。

そこで今後も、令和 7 年度入学生及び在学生への教育並びに進路支援等に関しては、上記の本学の特徴を活かして教育課程における指導を徹底し、卒業並びに就職へとこれまで以上に総力を挙げ責任をもって対応する。また、閉学後も学籍簿の管理や各種証明書をはじめとする諸証明の発行について、必要な体制を継続する。

(1) 閉学までの処理

① 学生募集停止の周知

② 教職員説明

- ・ 教員の教育研究業績書等の保管

③ 成績証明書等の事務処理

④ 同窓会対応

- ・ 同窓会会員は 1 万余名（そのうち約 6 千名に会報等の資料を送付）
- ・ 終身会費納入会員への閉学後の対応

- ⑤学生寮
 - ・学生寮の廃止（甲子園学院中学校・高等学校の寮としての活用への協力）
- ⑥介護福祉士養成施設卒業生報告
 - ・令和6年度を以て介護福祉士養成コースは全員卒業
- ⑦備品・機器類引継（関係学校園との調整）
 - ・電子ピアノ76台、冷蔵庫、園芸関係備品等の処分
 - ・図書は約5.6万冊（他校園での活用の検討）
 - ・幼児教育保育学科関係遊具等の備品
- ⑧各種個人情報関係書類
 - ・学生（履修登録票と調査書を含む）と教職員の個人情報の処理
- ⑨短期大学関係書類の引き継ぎ
- ⑩保育士養成施設指定取消申請（兵庫県／西宮市）
- ⑪卒業式・閉学式典

（2）施設の跡地活用

短期大学の閉学に伴い、短期大学の所管している土地建物の跡地利用について検討が必要となる。

- ① 短期大学校舎（地上5階・地下1階）
- ② 自転車置き場
- ③ 生活実習ハウス
- ④ 駐車場
- ⑤ 学生寮
- ⑥ 運動場
- ⑦ イネーブルガーデン

6 甲子園大学

【私立大学を取り巻く環境について】

現在、グローバル化・デジタル化、国内では少子化が急速に進展しており、AIやロボット技術の発展等は労働市場にも変容をもたらしている。産業構造が資本集約型から知識集約型に変わる中、問題発見力・解決力や革新性といった能力が一層求められることが予想されており、大学教育の役割が重視されている。予測不可能とも言える時代を生き抜く人材を輩出するためにも、私立大学は個性的で魅力あふれる学校作りを期待されている。

甲子園大学は建学の精神を指針として、多様化する学生ニーズや社会的ニーズに応えながら、多様で柔軟な教育プログラム編成とガバナンス構築を行い、大学の強みや特色を明確化したうえで、教職員があるべき姿（ビジョン）を共有する必要がある。ビジョンを共有し、各施策を確実に実行することにより、魅力的な大学作りを行う。

【施策】

1. 学生ニーズ対応と地域との連携強化

授業評価アンケート等にて常に学生ニーズを収集し、改善すべき点を把握し、PDCAサイクルを回しながら満足度向上を図る。

施設面でも学生ホール等、学生が集う設備の改修を重点的に行う。

就職について、学生に寄り添ったキャリアサポートを行うことで、就職率の向上だけでなく、満足度の向上を図る。

国家試験受験については補習授業の充実やキャリアサポート等、本学独自のきめ細かい学生支援を行い「学生のチャレンジ精神」の引き出し、国家試験合格者数の増加を目指す。

宝塚市との連携をこれまで以上に深め、地域と共に学び支えあう社会の実現につなげることで、学生・地域社会のウェルビーイング向上を目指す。

2. 魅力的なカリキュラムの提供

教職員が一丸となり、常に学生とのコミュニケーションを強化し、優良な高等教育を提供する。

学生の能動的な学修意欲を引き出すアクティブラーニングを促進し、魅力的なカリキュラムを構築する。また、現在行っている基礎学力向上のための補習授業の充実化を図り、学力を底上げするとともに、国家試験合格率向上

を目指す。

3. 教職員の資質向上

学生の能動的な学修意欲を引き出すために、教職員も意欲的に学んでいくことの重要性を再認識し、学生と共に成長する。現在行っているFD（教員）SD（職員）研修について内容を充実させることで、教職員の意識高揚を図る。また、外部研修・学会への参加を促し知識向上を図るとともに、各部署内ジョブローテーションを積極的に行い、教職員のスキルアップを図る。

4. 研究活動の活性化

研究施設・備品を充実させ、研究促進できる環境を整備し、学会発表数、論文掲載数の増加を図る。

大学生の修学意欲を引き出すことで、大学院生の増加を目指す。また、海外留学生も含め多様な大学院生の受入体制を構築する。

5. 学生が集う魅力的なキャンパス作り

入学希望者の増加を図るべく、広告・SNS等を用いて社会の変化に柔軟に対応しながら、効果的かつ積極的に甲子園大学の魅力を発信する。

施設面では、学生が心地よいキャンパスライフを送るために、学生ホールの改修等の既存施設改修を行う。また、老朽化した棟の閉鎖・解体等も含め、大学の活性化に必要な設備投資を検討し、魅力的なキャンパスを構築する。